

ごくまれにあらわれる旨注意を喚起しているところです。

したがって、厚生労働省としては、現段階でタミフルの安全性に重大な懸念があるとは考えていません。

医師の指示に従って適切に服用するとともに、副作用の症状があらわれたときは、医師、薬剤師に相談して下さい。

※1 中毒性表皮壊死症は、一般用医薬品を含めた多くの医薬品においてごくまれにあらわれる副作用として報告されています。医薬品・医療機器等安全性情報 No.218(<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2005/10/h1027-1.html>)の「2. 医薬品による重篤な皮膚障害について」を御参照下さい。

※2 タミフル発売(平成13年2月)後に厚生労働省に報告された事例については上記のとおりですが、これとは別に、タミフルの製造販売業者は、そもそもタミフルとの因果関係がないものとして死亡16例を把握していると聞いています(平成18年10月31日現在)。

(参考:タミフルの有用性について)

(1) 医薬品は、人体にとって本来異物であり、何らかの副作用が生ずることは避け難いものです。このため、治療上の効能・効果と副作用の両者を考慮した上で、医薬品の有用性が評価されるものです。

(2) タミフルについては、

○ WHOや欧米においても、インフルエンザに有効な医薬品は実質的にタミフルしかなく、新型インフルエンザ対策の重要な柱として位置付けられており、

○ タミフルとの因果関係を否定できない死亡例が上記のとおり報告されていますが、ごく限られたものです。

(3) したがって、タミフルは医薬品として高い有用性が認められるものであり、通常のインフルエンザ及び新型インフルエンザ対策の上で、必須の医薬品と考えられています。

再掲載が望ましい

IV-8 タミフルをインターネット等で個人輸入して、使用してもかまわないのでしょうか。

Answer

タミフルは、医療機関を受診し、医師の指示に従って服用する医薬品です。

タミフルを個人輸入して、自己判断で使用することにより、健康被害が引き起こされる可能性もありますから、安易に個人輸入して使用することは控えて下さい。

〔参考〕

1. タミフルの添付文書は、医療用医薬品の添付文書情報(検索ページ)
(http://www.info.pmda.go.jp/psearch/html/menu_tenpu_base.html)の「一般名・販売名」に「タミフル」と入力し、[検索実行]ボタンをクリックすることにより入手できます。
2. タミフルの「くすりのしおり」(医師や薬剤師などの医療提供者から患者さんに、その「くすり」の概要を説明する際の補助資料です。)は、くすりの適正使用協議会のウェブサイト(<http://www.rad-ar.or.jp/siori/kensaku.html>)で、検索・入手できます。
3. タミフルのインタビューフォーム(医療用医薬品添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な医薬品の適正使用や評価のための情報あるいは薬剤情報提供の裏付けとなる情報等が集約された総合的な医薬品解説書です。日本病院薬剤師会が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼しているものです。)は、中外製薬株式会社ウェブサイトの「医療関係者向け情報」(<http://www.chugai-pharm.co.jp/hc/di>)で、検索・入手できます。
4. 「インフルエンザ脳症ガイドライン」(厚生労働省 新興・再興感染症「インフルエンザ脳症の発症因子の解明と治療及び予防方法の確立に関する研究」班作成)は、<http://www.okayama-u.ac.jp/user/med/ped/pedhome.html> で入手できます。

資料 8

別紙様式 1

相 談 記 録 簿

区分	Tel ・ E-mail ・ Fax		
平成	年	月	日 ()
担当者名			
年代	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代以上 8. 不明		
性別	1. 男 2. 女 3. 不明		
職 業	1. 私企業 2. 食品関係 3. 学校・PTA (含む校医) 4. 医療従事者 (校医除く) 5. 輸送関係 6. メディア 7. 行政機関 8. 主婦 9. 学生 10. 無職 11. その他 ()		
居住地 (都道府県)	1. 北海道 2. 青森 3. 岩手 4. 宮城 5. 秋田 6. 山形 7. 福島 8. 茨城 9. 栃木 10. 群馬 11. 埼玉 12. 千葉 13. 東京 14. 神奈川 15. 山梨 16. 長野 17. 新潟 18. 富山 19. 石川 20. 福井 21. 岐阜 22. 静岡 23. 愛知 24. 三重 25. 滋賀 26. 京都 27. 大阪 28. 兵庫 29. 奈良 30. 和歌山 31. 鳥取 32. 島根 33. 岡山 34. 広島 35. 山口 36. 徳島 37. 香川 38. 愛媛 39. 高知 40. 福岡 41. 佐賀 42. 長崎 43. 熊本 44. 大分 45. 宮崎 46. 鹿児島 47. 沖縄 48. 海外 ()		
相 談 内 容	番号	-	-
	(例1-1)	-	-
回答 (指示事項等)			
備 考 欄			

相談内容

インフルエンザ臨床・疫学

- 1-1 臨床症状(重症例を除く)
- 1-2 潜伏期、ウイルス排出期間
- 1-3 再感染
- 1-4 重症化・後遺症
- 1-5 インフルエンザ脳症
- 1-6 流行状況(地域、期間など)
- 1-7 流行株について
- 1-8 施設内流行について(学級閉鎖を除く)
- 1-9 学級閉鎖
- 1-10 感染経路について
- 1-11 基礎疾患との関連
- 1-12 他の感染症との関連
- 1-13 その他

インフルエンザ診断・治療

- 2-1 診断法
- 2-2 診断キット(感受性、特異性)
- 2-3 タミフル(適応・投与量など)
- 2-4 タミフル(副作用)
- 2-5 リレンザ(適応・投与量など)
- 2-6 リレンザ(副作用)
- 2-7 他の抗インフルエンザ薬について(タミフルなど)
- 2-8 抗生物質
- 2-9 消毒(環境・器具・衣類・その他)
- 2-10 その他

予防対策(ワクチン以外)

- 3-1 手洗い、うがい
- 3-2 換気・湿度管理

インフルエンザワクチン

- 4-1 接種回数
- 4-2 接種間隔
- 4-3 接種量

インフルエンザワクチン(つづき)

- 4-4 接種部位
- 4-5 接種後の処置(接種部位を揉むかどうかなど)
- 4-6 接種の是非(禁忌・要注意者を含む)
- 4-7 脳症との因果関係
- 4-8 ワクチン製造株
- 4-9 乳児への接種
- 4-10 幼児への接種
- 4-11 妊婦への接種
- 4-12 授乳時の接種
- 4-13 妊娠時の接種
- 4-14 定期接種との関連
- 4-15 基礎疾患がある場合
- 4-16 接種できる場所(機関)
- 4-17 接種費用
- 4-18 ワクチン効果(持続期間・予防効果)
- 4-19 再感染
- 4-20 アジュバント

インフルエンザワクチン副反応

- 5-1 副反応(接種部位の発赤、腫脹)
- 5-2 副反応(重症)
- 5-3 副反応出現時の補償

その他のワクチン

- 6-1 肺炎球菌ワクチンなど
- 鳥インフルエンザ
 - 7-1 ヒトへの感染
 - 7-2 ワクチン
 - 7-3 流行状況
 - 7-4 予防対策

新型インフルエンザ

- 8-1 出現時期
- 8-2 ワクチン

Ⅱ．分担研究報告

2．国民のニーズの把握収集に関する調査

分担研究者：栗山 真理子

インフルエンザ・新型インフルエンザに関するアンケート調査

分担研究者：栗山真理子（日本患者会情報センター代表）

研究協力者：石垣 千秋（東京大学大学院総合文化研究科）

A 研究目的

本調査は、新型インフルエンザの世界的流行（パンデミック）の危機も懸念されるなか、国民のインフルエンザ及び新型インフルエンザに対する意識を把握し、また有効な情報提供の手段を把握するために実施した。

B 研究方法

1. 調査対象、実施方法、有効回収数（率）

調査対象は国民全体（年齢性別を問わず、当該インターネットホームページにアクセスした者）とした。

実施方法は、日本患者会情報センターのホームページ（<http://www.kanjyakai.net/cgi-bin/influenza/form.cgi>）にアクセスし、回答にご協力いただける方にご協力をいただいた。

アンケートの実施（掲載）期間は、2008年3月5日から3月20日までである。

総回答数は104件、うち、性別、年齢共に無回答の2件を無効とし、有効回答数は102件となった。

2. 調査項目

調査項目は以下の通りである。

【回答者属性】

- 職業、医療従事者の有無、患者団体関係

者の有無、性別、年齢

【インフルエンザについて】

- インフルエンザ予防接種の摂取状況（以前接種した時期、予防接種を受けない理由）
- インフルエンザの情報の情報源
- インフルエンザの情報入手にインターネットを利用している際のアクセス先等
- 最も信頼するインフルエンザの情報源
- インフルエンザの情報に対する関心度・内容
- 「インフルエンザ等 感染症相談窓口」の認知度・利用時の評価

【新型インフルエンザについて】

- 「新型インフルエンザ」の認知度
- 「新型インフルエンザ」の情報源、最も信頼する情報源
- 「新型インフルエンザ」に対する関心度、関心事

C 研究結果

1. 研究結果をみる上での留意点

今回のアンケート調査は、回答の代表性、無作為性等が十分確保されないインターネットを活用している上、開設後間もないホームページを利用して実施したものである。したがって、母集団が確定できないうえ、国民を代表とした意見として理解するには、大きな制約があることを念頭におくべきである。

また、有効回答数が102件と少ないことから、性別等のクロス集計を実施すると統計的な有意性が担保されない。このため、単純集計だけで大まかに傾向をつかみ、今後のさらに拡大した調査のための予備的な調査と位置づけている。

2. 集計表の見方

集計上、母数が有効回答数全体の102件となる場合には、「全体」という項目で表示している。特定の回答者だけが回答する場合は「該当数」として表示した。

また、先に述べた通り、国民全体の意見の代表制が担保されないため、割合での表示は行わず、すべて件数で記述していくことにする。

3. 属性

回答者の職業をみると、会社員が34件、その他が21件、専業主婦が16件、パート・アルバイトが13件の順で多くなっている。

医療従事者（臨床従事者または医学研究者等）の有無をみると、医療従事者は16件にとどまり、回答者の大半は非医療従事者である。

患者団体の関係者は30件、患者団体関係者以外が68件となり、3分の2程度は患者団体の関係者以外である。

性別をみると、男性が36件、女性が66件となり、女性の回答者の方が多かった。

年齢をみると、30代が27件、40代が33

件、50代が20件で、20代が5件と少なかった点を除けば、ほぼインターネットを頻繁に利用する年齢層の回答が多くなっていることがわかる。

表1 性別・年齢別の回答件数

	男性	女性
10代	1	0
20代	1	4
30代	8	19
40代	15	18
50代	5	15
60代	3	8
70代以上	3	2
無回答	0	0
合計	36	66

4. インフルエンザ予防接種の有無

インフルエンザの予防接種の有無をみると、「必ず毎年受けている」という回答が35件、「ほぼ毎年受けている」という回答が23件、「ほとんど受けたことがない」という回答が44件だった。過半数の人がおおよそ毎年予防接種を受けていることになる。

「ほとんど受けたことがない」人に、以前受けた時期をたずねると、「15年以上前」が32件と大半を占め、かなり長期にわたって予防接種を受けていないことが明らかになった。

受けない理由としては「インフルエンザにかからないと思うから」が12件と最も多かった。

5. インフルエンザの日常の情報源／最も信頼する情報源

ふだんインフルエンザの情報をどのように入手しているかについてたずねると、「新聞／日刊紙」が60件と最も多く、次いで「テレビ／NHKのニュース」が52件、「テレビ／民間放送のニュース」が50件だった。

ほかには、「インターネット」が29件、「病

院やクリニックで直接（医師、看護師や掲示など）」が28件となっている。

一方、同様の選択肢で最も信頼する情報源をたずねると、回答は分散する傾向を見せ、「新聞／日刊紙」が19件、「病院やクリニックで直接（医師、看護師や掲示など）」が18件、「国立感染症研究所」が14件、「テレビ／NHKのニュース」が11件、「テレビ／民間放送のニュース」が10件だった。

表2 インフルエンザの日常の情報源（MA）／最も信頼する情報源（SA）
(n=102)

		日常の情報源	最も信頼する情報源
新聞	1 日刊紙	60	19
	2 スポーツ新聞	2	0
	3 専門紙	3	0
テレビ	4 NHKのニュース	52	11
	5 NHKの健康番組	6	1
	6 民間放送のニュース	50	10
	7 民間放送の健康番組	7	0
	8 その他	1	0
ラジオ	9 NHKのニュース	2	1
	10 NHKの健康番組	1	0
	11 民間放送のニュース	6	0
	12 民間放送の健康番組	0	0
	13 その他	0	0
	14 都道府県・市区町村からの広報紙	10	1
	15 保健所の情報(パンフレットなど)	2	1
	16 雑誌・書籍	9	1
	17 インターネット	29	6
	18 病院やクリニックで直接(医師、看護師や掲示など)	28	18
	19 厚生労働省	4	3
	20 国立感染症研究所	7	14
家族・友人	21 医療関係者	14	4
	22 非医療関係者	14	6
	23 その他	5	3
	24 無回答	1	4
合計		102	102

6. インターネットのアクセス先

日常のインフルエンザの情報収集にインターネットを利用していると回答した人にアクセス先をたずねると、「新聞社のホームページ」が16件、「国立感染症研究所のホームページ」が11件、「厚生労働省のホームページ」が10件だった。そのうち、最も信頼するアクセス先には「国立感染症研究所」(10件)があがっている。ただし、ここではアクセス経験の有無が明確ではないので、必ずしもアクセスせずに回答している可能性がある。

7. インフルエンザに対する関心度／関心がある情報

インフルエンザに対する関心度をみると、「とても関心がある」という回答が36件、「まあ関心がある」という回答が49件で、8割以上の人に関心を持っていることが明らかになった。

一方、「ほとんど関心がない」という回答は5件、「まったく関心がない」という回答は1件と、関心がない人はごく少数に止まった。

関心がある情報は「流行情報」(85件)、「予防法」(53件)、「治療法」(40件)、「症状」(36件)の順となっている。

8. 「インフルエンザ等 感染症相談窓口」の評価

NPO 法人バイオメディカルサイエンス

研究会が設置した「インフルエンザ等 感染症相談窓口」の認知状況をたずねると、相談窓口があるのを「知らなかった」という回答が84件と大半を占めている。また、「あるのは知っていたが、利用したことはない」という回答が13件となっている。

「利用したことがある」という2件について評価をたずねると、対応は「よかった」(1件)、「普通」(1件)で、情報については「役に立った」(1件)、「まあ役に立った」(1件)となっている。

9. 「新型インフルエンザ」の認知度

「新型インフルエンザ」については、「知っていた」という回答が93件と大半を占めており、昨年から様々なメディア等で情報に接することが増大した結果であると考えられる。

一方「知らなかった」という回答は3件にとどまっている。

10. 「新型インフルエンザ」の情報源／最も信頼する情報源

「新型インフルエンザ」の情報源をみると、「新聞／日刊紙」が59件と最も多く、次いで「テレビ／NHKのニュース」が53件、「テレビ／民間放送のニュース」が49件だった。この傾向はインフルエンザの場合と同様である。

しかし、「インターネット」が23件と多く、逆に「病院やクリニックで直接」とい

う回答は9件と少なくなっている。

このうち、最も信頼できる情報源をたずねると、「新聞／日刊紙」が26件と最も多く、次いで「国立感染症研究所」が18件、

「テレビ／NHKのニュース」が10件、「病院やクリニックで直接」という回答も同様に10件となった。

表3 「新型インフルエンザ」の情報源 (MA) / 最も信頼する情報源 (SA)
(n=102)

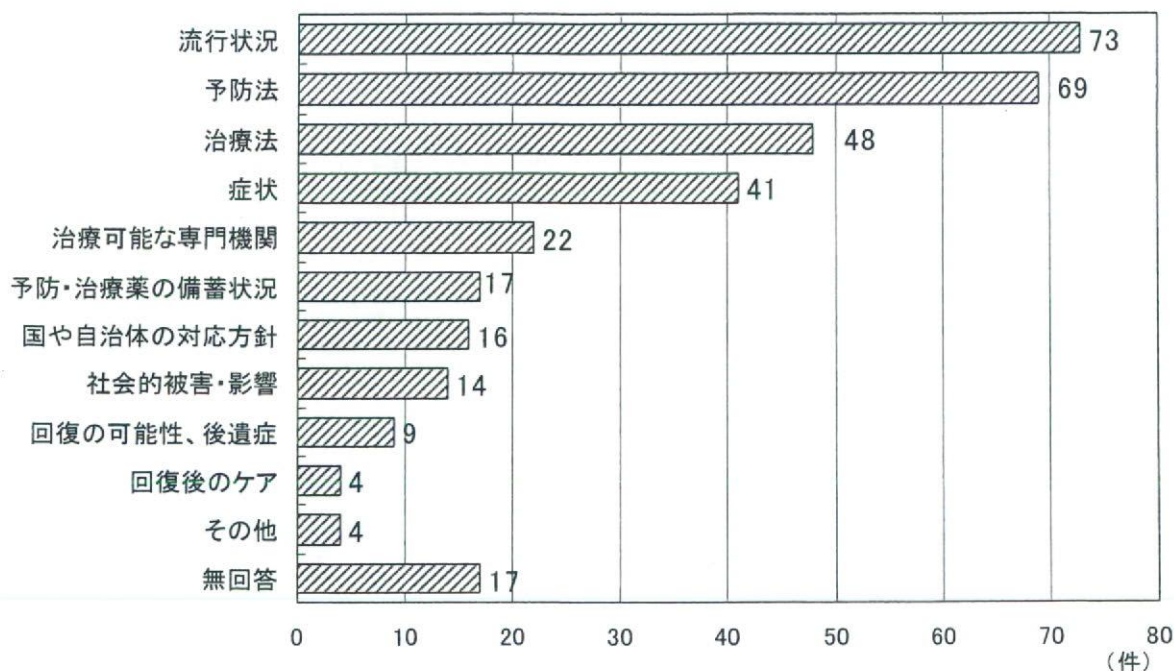
		日常の情報源	最も信頼する情報源
新聞	1 日刊紙	59	26
	2 スポーツ新聞	2	0
	3 専門紙	3	0
テレビ	4 NHKのニュース	53	10
	5 NHKの健康番組	14	3
	6 民間放送のニュース	40	7
	7 民間放送の健康番組	7	1
	8 その他	3	1
ラジオ	9 NHKのニュース	2	1
	10 NHKの健康番組	1	0
	11 民間放送のニュース	1	0
	12 民間放送の健康番組	2	0
	13 その他	0	0
	14 都道府県・市区町村からの広報紙	4	1
	15 保健所の情報(パンフレットなど)	1	1
	16 雑誌・書籍	12	3
	17 インターネット	23	2
	18 病院やクリニックで直接(医師、看護師や掲示など)	9	10
	19 厚生労働省	8	7
	20 国立感染症研究所	10	18
家族・友人	21 医療関係者	11	4
	22 非医療関係者	9	2
	23 その他	4	2
	24 無回答	4	3
全体		102	102

11. 「新型インフルエンザ」の情報に対する関心度／知りたいこと

「とても関心がある」という回答が57件、「まあ関心がある」という回答が36件と、9割以上の人が関心を示している。

特に知りたい情報としては、「流行情報」73件、「予防法」69件、「治療法」48件、「症状」41件という結果だった。

図1 「新型インフルエンザ」について知りたいこと (MA、n=102)



12. インフルエンザ、「新型インフルエンザ」についての疑問点等

自由記入では、新型インフルエンザワクチンの備蓄の問題や、ほかに持病／既往症があるため、インフルエンザの予防接種を受けていないことに対する不安等についての記入があった。また、様々な情報の真偽を不安に感じている様子も伺えた¹。

【新型インフルエンザに対する不安】

- 新型インフルエンザが発生しないようにと願っています。もし発生しても、感染を食い止められるように、国を越えて早い対応をしてもらいたいです。
- 新型インフルエンザのワクチン備蓄に関して、海外の状況と最先端のワクチンの情

¹ 記入の中には記入者の誤解と思われるものがあるが、回答者の記入を尊重して記入通りに掲載している。

報を流してほしい。

- 治療薬は、間に合うのでしょうか？予防接種はあるのでしょうか？情報を大きく流して欲しいと思います（テレビや新聞、ラジオ）
- 新型インフルエンザの流行が心配です。日本は他国に比べて薬の備蓄等が充分でないようです。もし今新型インフルエンザが流行すると、一般市民はどうなるのでしょうか？一刻も早い国の対応に期待しています。
- 新型インフルエンザが日本で流行したら65万人が死亡すると聞いているが、その治療薬も限界があると思う。細菌感染がどういふ状況で起こり、予防が可能なのかも不安である。正しい情報をきちんと届けて欲しいが、この新型インフルエンザの緊急情報体系を確実に国民に届くように構築して欲しい。何が何だかわからないという実態だけは困る。

- 新型インフルエンザに関して、非常に怖いという情報が飛び交っていますが、インフルエンザ一般に関して、市民の一人として知りたいのは、どれくらいの患者がどの地域で出ていて、その症状はどんなものか、予防にはどうすればいいのか、患者となった人は、できるだけ、電車を含めて公の場に出ないようにすることなどを、広く知らせて欲しいと思います。
- 新型インフルエンザのワクチンを限られた人だけしか受けられないなんておかしいと思います。受けたい人が受けられるようにしてほしい。スイスはちゃんと準備をしているのに日本はどうしてできないのか？腹が立ちます。

【インフルエンザ予防接種についての意見】

- 予防接種の効果を簡単に知りたい。
- インフルエンザに関する情報がたくさんあり、どの情報が正しいのかよくわからない。メディアが正しいとも思えず、情報の質に関する情報もほしい。
- 予防接種の費用が、きついときがある。新型の予防接種、治療は、無料にしてほしい。お金のないときにかかったら、と思うと心配。
- インフルエンザワクチンの価格が都道府県、各地によって違うのはどうしてなのか？年寄りや安いが小学生は基本的に2回摂取なので子供がたくさんいると大人（夫婦）とで受けるとかなりの出費になるので受けないという人が多いです。
- 医療機関に勤務しているので、予防接種は必ずしている。しかし、新型インフルエンザのときには、医療者ではないので、予防接種が受けられるかどうか心配している。ただ、アレルギー体質もあるので、新型インフルエンザの予防接種をしなければならぬといわれたときの摂取にも、少し心

配がある

- 患児の親として、持病にも影響があるため、とても関心があります。
- 先天性の心臓機能障害者で、生まれてから一度もインフルエンザの予防接種を受けたことがない。私たちが大きくなるくらい前は、心臓病の子は予防接種は受けないように主治医に指導されていた子が多い。今ではその情報が古いことはよく分かっているが、現在まがりなりにも元気に暮らしているのに、余計なことをして大変な事態になったらと思うと、怖くて予防接種が受けられない。冬が来るたびに、「今年もセーフ！」という感じでやり過ごしている。
- 疾患名をたくさん持っていますので、先天性心疾患だけでなく、4年前に乳がんも治療し手術時から糖尿病も併発したのです、少し食事にも注意していますのに、インシュリンのお世話になっても中々血糖値が下がりません。だからこれにインフルエンザも併発すれば、大変ですので、注意しています
- 今日までインフルエンザにかかった事は有りませんが、心臓に持病を持つ自分には、かかってしまった時の事を考えると恐ろしい思いです。毎年冬場になると「インフルエンザ」に対してピリピリして用心はしているのですが…用心してもかかってしまった時には、どのような対応・対処すれば良いのか？と考えております。インフルエンザにかからないためにも、是非ともインフルエンザの予防法をお知らせ頂ければ…と思っております。
- うがい、手洗い、加湿器、睡眠でこの数年風邪を引いていないから、なんか大丈夫じゃないかなと思っています。甘いですか。予防接種を受けない理由、なんとなく・・・ですが選んでもでません。

【インフルエンザ・新型インフルエンザに対する情報の提供を望む意見等】

- 以前からインフルエンザワクチンは効かないという話は聞いていました。そこで今回、「インフルエンザワクチンは打たないで」という本を読みました。この本を読む限り、インフルエンザワクチンは効かないこととなります。果たして本当のところはどうかこれが一番知りたいところです。
- インフルエンザ脳症とインフルエンザワクチンとの関係、国際的状況との比較が不明瞭。大量の薬漬け、一部の薬事関係者のみが得をしている感がどうしても抜けない。(薬価不透明)
- 風邪やインフルエンザには、解熱剤や抗生物質などの薬が必要ない、と最近特にいわれるようになった。新型インフルエンザも、どれほどの威力か判らない段階ではあるが、治療について、同列ではないとて、見分け方は難しいのではないかと。軽症での救急車の要請や夜間の受診に非難が集まっている感があるが、一般の良識あるほとんどの人は、緊急受診を遠慮している。はっきりと区別できるような指標がない限り、新型インフルエンザは「疑わしきは治療する」にする必要があると思う。整合性のある広報を望む。
- 社会的不安が大きくなり、以前養鶏業者が自殺に追い込まれたが、そのようなことがないように、きちんと対策を発表し、事実を隠さずに知らせてほしい。

D 考察

以上の調査結果により、回答者はインフルエンザに対しては予防接種を受けて予防策を講じ、「新型インフルエンザ」に対しても高い関心を示していることが分かった。

通常情報を入手する経路は様々であるが、総じて活字（「新聞／日刊紙」）に対する信頼が高い。これは、インターネットを通じたアンケート調査では、やや予期しない結果だった。

また、通常のインフルエンザでは、病院やクリニックで直接情報を得ており、信頼度も高いが、「新型インフルエンザ」では、病院やクリニックで直接情報を得ているという回答は少ない。

また、インターネットを利用した場合に、信頼度の高い情報源として「国立感染症研究所」をあげた回答が多く、例えば「新型インフルエンザ」についての情報の錯綜等があった場合には、今後もアクセスが増えていくことも考えられる。

E 結論

以上のことから、今後国民にインフルエンザ、「新型インフルエンザ」の情報を提供していくにあたっては、国民の信頼度が高い「新聞／日刊紙」を利用するとともに、国立感染症研究所のホームページの充実により、国民の関心の高い流行状況、予防法、治療法等の最新の情報を提供していくことが重要である。

一方、NPO 法人バイオメディカルサイエンス研究会が設置した「インフルエンザ等感染症相談窓口」はほとんど認知されておらず、この窓口そのものについて新聞等を通じて認知してもらうことも必要であろう。

なお、自由記入に見られるように、持病／既往症を持つ人が予防接種を受けられず、

インフルエンザの罹患を心配していることから、新たな医学の知見を交えて、接種の

可否が判断できるようにしていくことも必要である。

資 料

- 資料 1. アンケート調査票・・・・・・・・・・ 87 頁
資料 2. 集計表・・・・・・・・・・・・・・・・ 95 頁

(分担研究者：栗山 真理子)

資料1 アンケート調査票

F1 職業	※選択してください 1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. パート・アルバイト 5. 学生 6. 専業主婦 7. その他
F2 医療関係者 (臨床に従事している方や医学研究者等)	1. はい 2. いいえ
F3 患者団体関係者	1. はい 2. いいえ
F4 性別	1. 男性 2. 女性
F5 年齢	※選択してください 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代以上
まず毎年冬を中心に流行するインフルエンザについてお伺いします。	
Q1 あなたはインフルエンザの予防接種を受けていますか？	1. 必ず毎年受けている 2. ほぼ毎年受けている 3. ほとんど受けたことがない※1
※1「ほとんど受けたことがない」と回答した方にお聞きします。	
SQ1-1 あなたが以前、インフルエンザの予防接種を受けたのはいつ頃ですか？	1. 3-5年前くらい 2. 5-10年前くらい 3. 10-15年前くらい 4. たぶん15年以上前
SQ1-2 インフルエンザの予防接種を受けない主な理由は何ですか？ (複数回答可)	1. インフルエンザにはかからないと思うから 2. インフルエンザにかかっても薬で治せばいいと思うから 3. 予防接種は効果がないと思うから 4. 受けたいが、時間がないから

	<ul style="list-style-type: none"> 5 . 受けたいが、病院、クリニックが遠いから 6 . 受けたいが、費用が高いから 7 . 予防接種の副作用が心配だから 8 . 特に理由はない、何となく面倒だから 9 . その他 (20文字以内)
<p>Q2 あなたは、ふだん、どこからインフルエンザの情報を得ていますか。 (複数回答可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1 . 新聞 / 日刊紙 2 . 新聞 / スポーツ新聞 3 . 新聞 / 専門紙 4 . テレビ / NHKのニュース 5 . テレビ / NHKの健康番組 6 . テレビ / 民間放送のニュース 7 . テレビ / 民間放送の健康番組 8 . テレビ / その他 (20文字以内) 9 . ラジオ / NHKのニュース 10 . ラジオ / NHKの健康番組 11 . ラジオ / 民間放送のニュース 12 . ラジオ / 民間放送の健康番組 13 . ラジオ / その他 (20文字以内) 14 . 都道府県・市区町村からの広報紙 15 . 保健所の情報 (パンフレットなど) 16 . 雑誌・書籍 17 . インターネット※2 18 . 病院やクリニックで直接(医師、看護師や掲示など) 19 . 厚生労働省 20 . 国立感染症研究所 21 . 家族・友人 / 医療関係者 22 . 家族・友人 / 医療関係者ではない 23 . その他

「インターネット」と回答した方にお聞きします。	
SQ2-1 あなたはインターネットでどこにアクセスしていますか。(複数回答可)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞社のホームページ 2. テレビ局のホームページ 3. 都道府県・市区町村・保健所のホームページ 4. 病院やクリニックのホームページ 5. 厚生労働省のホームページ 6. 国立感染症研究所のホームページ 7. 大学等の研究機関のホームページ 8. その他
SQ2-2 上記のうち、最も信頼しているアクセス先はどれですか。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞社のホームページ 2. テレビ局のホームページ 3. 都道府県・市区町村・保健所のホームページ 4. 病院やクリニックのホームページ 5. 厚生労働省のホームページ 6. 国立感染症研究所のホームページ 7. 大学等の研究機関のホームページ 8. その他
Q3 あなたが、心だん最も信頼しているインフルエンザの情報源は何ですか。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞 / 日刊紙 2. 新聞 / スポーツ新聞 3. 新聞 / 専門紙 4. テレビ / NHKのニュース 5. テレビ / NHKの健康番組 6. テレビ / 民間放送のニュース 7. テレビ / 民間放送の健康番組 8. テレビ / その他 (20文字以内) 9. ラジオ / NHKのニュース 10. ラジオ / NHKの健康番組 11. ラジオ / 民間放送のニュース 12. ラジオ / 民間放送の健康番組 13. ラジオ / その他 (20文字以内)

	<ul style="list-style-type: none"> 14. 都道府県・市区町村からの広報紙 15. 保健所の情報(パンフレットなど) 16. 雑誌・書籍 17. インターネット※2 18. 病院やクリニックで直接(医師,看護師や掲示など) 19. 厚生労働省 20. 国立感染症研究所 21. 家族・友人 / 医療関係者 22. 家族・友人 / 医療関係者ではない 23. その他
<p>Q4 あなたはインフルエンザの情報にどれくらい関心がありますか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. とても関心がある 2. まあ関心がある 3. どちらともいえない 4. ほとんど関心がない 5. まったく関心がない
<p>Q5 あなたは、インフルエンザの情報のうち、次のどのような内容に関心がありますか。 主に関心があるものを3つ選んでください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 流行状況 2. 予防法 3. 症状 4. 治療法 5. 治療可能な専門機関 6. 回復の可能性、後遺症 7. 社会的被害影響(通勤・通学への影響、日常生活への影響など) 8. 回復後のケア(後遺症など身体のケア、精神的ケア) 9. 予防・治療薬の備蓄状況 10. 国や自治体の対応方針 11. その他(20文字以内)
<p>Q6 あなたは、右欄の「インフルエンザ等 感染症相談窓</p>	<p>厚生労働省では、NPO法人バイオメディカルサイエンス研究会に委託して2007年11月5日～2008年3月31日まで「インフルエンザ等 感染症相談窓口」を設置しています。</p> <p>TEL : 03- 3200- 6784 FAX : 03- 3200- 5209</p>

<p>口」を知っていましたか？</p>	<p>受付時間： 9：30～17：00 月曜～金曜</p> <p>1．利用したことがある※3 2．あるのは知っていたが、利用したことはない 3．知らなかった</p>
<p>「利用したことがある」と回答した方にお聞きします。</p>	
<p>SQ6-1 あなたは、その時の担当者の対応をどう感じましたか？</p>	<p>1．よかった 2．普通 3．よくなかった</p> <p>具体的に：</p>
<p>SQ6-2 あなたは、その時の相談が役に立ったと感じましたか？</p>	<p>1．役に立った 2．まあ役に立った 3．あまり役に立たなかった</p>
<p>ここからは、ほとんどの人が免疫を持たないために、大流行が懸念されている「新型インフルエンザ」についてお伺いします。</p>	
<p>Q7 あなたは「新型インフルエンザ」という言葉を知っていましたか？</p>	<p>1．知っていた 2．知らなかった</p>